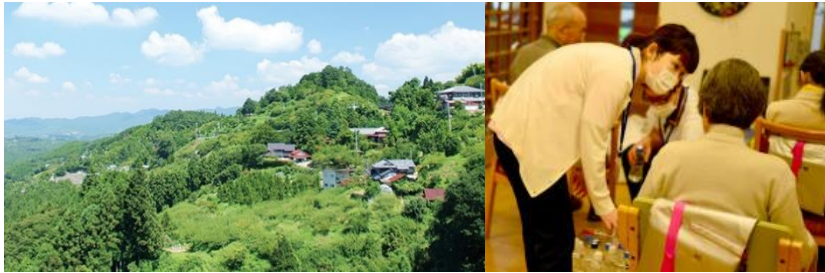


# 奈良女子大学 下市町との連携事例

## 自治体の課題(ニーズ)



奈良県下には過疎化が進んだ自治体が多い。下市町はその1つである。

病院が遠く通院に不便だけでなく、在宅看護・介護の場合、人手不足で一人のヘルパーが地区全体の相談を担当する事になり、巡回や電話対応しきれないなど、マンパワーの面でも少子化の影響を被っている。

そのため、少人数でも効率的・効果的に在宅者を見守れる方法を考えたい。

## 研究成果(シーズ)の還元



独居高齢者や妊婦、子供、アトピーによる掻爬等の疾患に苦しんでいる方等を日常簡易に見守ることができるウェアラブルデバイスや、行動を家電製品の使用状況から推定するスマート電力計等を導入する事で、遠隔地の役場や病院、保健所から少人数でも多くの方を同時に見守ることが可能となる。

現地対応のために、地域に販売網を持つ生協等と連携し、システムと人の複合で地域を支える。

## この連携に携わった研究者



研究院 工学系  
才脇 直樹 教授

### (研究者の経歴)

- 2016年 4月 奈良女子大学 研究院 教授
- 2012年 4月 甲南大学 知能情報学部 教授
- 2003年 4月 奈良女子大学 生活環境学部 助教授
- 1999年 4月 大阪大学 大学院 基礎工学研究科 システム人間系専攻 専任講師
- 1993年 5月 大阪大学 基礎工学部 制御工学科 助手
- 1993年 4月末日 助手採用に付き、大阪大学大学院 基礎工学研究科 物理系博士後期課程 単位取得中退)

# 奈良先端科学技術大学院大学 四條畷市との連携事例

## 自治体の課題(ニーズ)

高齢者は、独居により人との接触機会が減少するなど、生活環境の悪化による身体機能の低下や、コミュニケーション不足による孤独死などが社会問題となっている。内閣府の高齢社会白書では、65歳以上の独居高齢者の約3割が、会話機会が2~3日に1回以下であり、さらには1割の高齢者は一週間の1回程度のコミュニケーションに限られている調査結果が報告されており、これらは認知症や鬱の原因や、健康な日常生活を損なう要因となる。

このような背景から、高齢者の見守りと健康寿命の延伸のための日常生活行動の改善支援が課題となっている。

## 研究成果(シーズ)の還元



高齢者特有の、新たな機器を利用することに対する心理的障壁(デジタルディバイド)によりそのまま使われなくなるようなことを避けるため、利用方法が不明な場合や疑問がある場合に相談ができる窓口(相談会)を定期的で開催すると同時に、自宅などでスマホの日常利用を習慣化するための日常的雑談対話基盤を併用することで、継続的利用を実現する。

大阪府四條畷市と連携し、規模を拡大しつつ、第一期(2022.02~2022.03)、第二期(2022.06~2023.01)、第三期(2023.07~2023.12)と継続した取り組みを行い、自走化を目指している。

## この連携に携わった研究者



### (研究者からのメッセージ)

実証実験では、定期的にはスマホ相談会を開催しています。そこでは対面サポーターがスマホの疑問を解決してくれますが、同時に自分でスマホの疑問を解決する方法を指導してくれます。その際、スマホ内にいるバーチャルロボットが、自分で悩みを解決する方法をテキストチャットを介して手助けしてくれます。実証実験期間内にバーチャルロボットとの対話を習慣化し、実験終了後も自分でスマホの悩みを解決できるスキルを身に付けることを目指します。

※研究者の経歴等は(URL:<https://imdl.naist.jp/ja/>)をご参照ください